

シルクロードの夢を語る



高野直明(地球と話す会副会長)

高野直明さんは、定年まで実直なサラリーマン人生を送りながら、少年のころに抱いたシルクロードへの夢を追い続けてきました。高校生のころにスウェン・ヘディンの「さまよえる湖」を読んで、その不思議な世界、とりわけシルクロードに魅了された高野さんは、大手ガス企業の技術部門に勤務するかたわら、本や資料を読みあさって夢をふくらませていきました。高野さんが実際にシルクロードに足を踏み入れたのは、「さまよえる湖」を読んだから30年余りを経た1992年でした。愛好家仲間と立ち上げた「地球と話す会」のメンバー50数名とともに、敦煌(とんこう)からタクラマカン砂漠のオアシスまで、ラクダの旅を実現しました。旅は、たいへん感動的でしたが、予期せぬ苦難も経験しました。以来、職場に気兼ねをしながら長期休暇をとり、何回にも分けて西へ西へと、シルクロード・オアシスルートの全線踏破をめざしました。60歳からの第二の人生では、シルクロードへの夢が生活の中心を占めるようになり、定年後9年たったことしの夏、高野さんの旅はついにローマに達しました。

番組では高野さんに、シルクロードへの夢とその旅から得たもの、そして今、第二の人生の過ごし方について、お話しいただきます。

東京で生まれ埼玉で育ち、現在は三郷にいる。このあたりは農村の雰囲気が残っていて好きだ。

シルクロードの国々の大半はイスラム圏。
ローマはシルクロードの到点。2012年8月8日、「地球と話す会」のメンバーと共にローマ教皇にあい平和の親書を手渡してきた。

高校時代に読んだ本、スウェン・ヘディンの「さまよえる湖」を読んで影響を受けシルクロード(中国—中央ラジオ—中東—ローマへの道)に興味を持った。

高校をでてガス会社にはいった。当時は中国に入ることができなかったが、1972年に日中国交が回復し2回のキャラバンに参加した。
1990年に新聞でキャラバンのことを知ったが、1ヶ月の休暇申請を会社に出せず参加を断念。

1991年にシルクロードの愛好者の会(シルクロードを勉強する)をつくり(自分は副会長)、発足して21年メンバーは90名。

1992年にタクラマカン砂漠から850キロのラクダでの旅(約50名)に出た。参加者は大学生から71歳までの男6割、女4割のメンバー。砂漠の暑さ寒さは過酷なもので、一日に四季がある気候だった。
旅の途中でメンバー同士がささいなことで喧嘩をしたり、怪我をする人が現れた。そこで休養日をつくったら、陰湿なムードはなくなった。24時間、一緒に居るとストレスがたまる。遊びの会でもストレスがたまる……が実感だった。

50から60年前前までは砂漠のラクダでのキャラバンがあったが今では珍しくなった。1992年以来、33回の旅を重ね、2003年にシルクロード、西安からイスタンブールまでを踏破した。

国境を12箇所こえた。陸路での旅は緊張の連続だった。2003年にトルクメンとイランの国境を越えるのが最後で全ての工程を終えた。

女性が一緒にいると現地の生活にとけこみやすい。現地はシンプルな生活をしている。

シルクロード(西安—イスタンブール)を陸路で越えたが費用と休暇が課題だった。費用は家族の協力・理解が大きかった。妻は現地での秘書、健康管理、カメラマンとして助けてもらった。

シルクロード踏破の夢がかない、定年後の今は
①家庭 ②地域社会(民生委員) ③趣味のシルクロードの三本柱で生活している。

学校での講演では、「夢は少しの努力で必ずかなうこと」を伝えている。

シルクロードに関連して絹文化を学んだ一環で、生のまゆをもらった。
2013年の春には草木染にチャレンジしたい。
今は絹のスカーフを自分の手で作りたいと思っている。

地球と話す会とは

「地球と話す会」は、シルクロードを舞台にライフワークを楽しもうという人たちが集まり、1991年に結成されました。92年には、中国の敦煌からチャルクリクまでの約800キロを1カ月かけて徒歩と駱駝で踏破しました。

現在は、自転車で夏の炎天下のシルクロードを毎年500~900キロを走りつなぎローマをめざす、「ツール・ド・シルクロード20年計画」を行っています。シルクロード走破という夢を20年かけて実現する試みです。93年に中国の西安をスタートし、2001年まで9回の遠征でウズベキスタン・ブハラまで、のべ約4850キロを走破しています。2002年は、中央アジア情勢を考慮し、トルコに遠征しました。また、定例会で講座「地球小学校」を開催しており、専門家による講演や会員によるライフワークの発表を行っています。

設立:1991年10月

組織:会長 高柳友典(1953年生)

副会長 高野直明(1943年生)

合田大次郎(1943年生)

川嶋清(1942年生)

